2021 年度項目別の自己評価表
YMCA 健康福祉専門学校

1.学校の教育目標

横浜 YMCA はキリスト教団体として、イエス・キリストの生き方にもとづき、人間性が尊ばれ、平和で公正な世界の実現をめざし、「横浜 YMCA－私たちの使命－」を制定しました。YMCA 健康福祉専門学校においても、「横浜 YMCA－私たちの使命－」の実現に向けた取り組みを展開します。職能教育機関として互いに育ち合う環境を提供し、豊かな人間性と専門性を身につけ、広く地域に貢献できる人材を育みたいと思います。そして、使命に基づき平和の実現を願い、福祉社会形成のよき担い手を育成したいと願っています。

1. 自己学習能力を身につけた人材を育成します

私たちは、学習の場から体験学習を通じて生きる力を学び取っていきます。本校においては、知的な情報収集にとどまることなく、実習、演習などを通じて職業現場から実践的に学習することを大切にしています。また、常に変動していく社会の中で、変化の方向を読みとりながら適切に判断し行動することは各自の学習能力にゆだねられています。常に学ぶ姿勢を忘れずに向上心、研究心をもって謙虚に学ぶことで、自らを高めていきましょう。

2.人間関係を豊かにする力を身につけます

人は、複数の人間との関係の中で初めて人となります。人は平和的な人とのかかわりを通してお互いに成長していきます。本当の人間的交わりを体験する機会が少なくなりつつあると言われる現代社会において、職業現場を意識した実習やボランティア活動を通して、コミュニケーション能力を高め、豊かな人間関係形成能力を身につけましょう。

3.サービス提供者にふさわしい社会的な行動様式を身につけます

社会において、常に相手の立場に立ち、考え、行動できることは大切です。サービス提供者としてふさわしい社会的な行動様式、あいさつの励行や、時間・提出期限の厳守などを、学生生活や現場実習を通して身につけていきます。

4.リーダーシップを発揮できる人材を目指します

リーダーシップとは、集団に対して、作用を及ぼす力、指導力、統率力を指します。最近は、多様なニーズをもった利用者や専門職の人びとへの円滑なコーディネーター（連絡調整）の能力もった人材が求められています。学年を越えた学生同士の直接的なかかわりを通して、積極的な自分の意見を発言できることを目指します。

5. ボランティア精神を理解し、積極的に参加します

ボランティア活動を通して「ともに生きる」ことの喜びと難しさを体験することを大切にしています。「家族」と「学校」という生活の軸に、「地域」が加わることにより、さらに自己成長の可能性が広がります。ボランティア活動をすることは、「地域（の人びと）」とかかわりをもつということです。「自ら」「持てる力で」「続けて」ボランティア活動をすることによって、多くのことを学びます。

2.本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

今年度も安定した運営状況を目指し、新入生の目標数確保及び学費滞納率の低下を目標とします。また、多様化する学生の就学支援に各種専門機関等と連携して取り組みます。

学生募集にあたっては、これまでどおり広報費用をあげることなく各種媒体業者との交渉を行い、高校生や高校教員へ学校案内を行う方法を継続します。全国的にも希望者の減少が課題となっている福祉分野では、高校内で行われる進路ガイダンスでも直接接触は限られています。学校の広報活動としては、最も有効となるWebでの情報提供に心がけ、自校Webサイトはもちろん、広報媒体のサイトを上手に活用するほか、SNSを利用した高校生にとって興味関心の持てる情報提供も積極的に実施します。希望者が有効だったと思える情報を提供できるように、そして丁寧な対応ができるように工夫します。また高校生の意思決定に影響の大きい保護者を対象として、広報活動の一環とした教育セミナーなどの開催を企画します。

学費納入については昨今の経済状況から奨学金制度利用者が増加している背景を鑑み、学生一人ひとりの状況に合せた納入計画を、学校側も個別に管理し、延滞のないようなしくみ作りに取り組みます。何よりも学生自身が安心して就学できる体制づくりを確立します。

今年度も継続して、学習に不安のある学生へきめ細やかに対応できるよう取り組みます。学生一人ひとりの課題（基礎学力不足、学習経験の不足、学習障害など）を早期に明確にし、クラス担任による定期面談のほか、専門職によるカウンセリングなども取り入れ、多様化した課題を正しく把握するとともに、家庭と、必要に応じた専門機関との連携を持った就学支援を行います。

介護福祉科では、国家資格取得に見合う知識技術レベルを教授すべく、模擬試験や国家試験対策の授業を充実させます。また基準点を満たすことのできない学生に対しては個別にフォーローアップを行い、合格水準まで引き上げることを目指します。また今後増加すると思われる介護福祉科での外国人留学生の受け入れについては、日本語学科と連携しながら日本語学習の時間を組みこむほか、地域施設へのニーズ調査などをとおして、実習、インターンシップ、就労など段階的にサポートできるよう、そしてなにより留学生も安心して学習できるよう、連携先の発掘と仕組みづくりに取り組みます。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標・YMCA活動

YMCA は 1844 年ロンドンで起こった青年の運動である。キリスト教の精神を基本に、青年の生活改善、文化向上、人生観の確立等のプログラムを持ったが、その初期より、職業教育への営みは活発であった。横浜での教育活動は1938年のビジネススクール、1954年の「和文タイプ科」の設立に始まり、1970年には「英語秘書実務科」を開設し、本格的な職業専門教育に取り組み、現在の職業教育につながっている。
世界の YMCA の結合の基準である聖書の言葉「すべての人を一つにしてください（ヨハネによる福音書17章21節）」を大切にしながら、「横浜YMCA私たちの使命」に基づき、多様なYMCAの価値や理念を「スクールアイデンティティー」として、カリキュラムや学校行事の中に確立しつつ、それぞれの分野での専門性を身につけ、平和な福祉社会を作るよき担い手として、広く地域社会に貢献できる人材養成を続けている。
横浜YMCAの理念に基づいた教育目標を学生、教職員、各関係委員や保護者などにも理解していただくために、さまざまな機会に伝えている。教職員においてはこの理念に基づく人材養成を、学生たちに向き合うあらゆる場面で心に留め、対応できるように努めている。

	適切…4,ほぼ適切…3, やや不適切…2,不適切…1			
理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野における職業教育の特色は何か）	4	3	2	1
学校における職業教育の特色は何か	4	3	2	1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	3	2	1
理念、目的、育成人材像、特色、将来構想などが生徒保護者等に周知されているか	4	3	2	1
各学科の教育目標,育成人材像は,学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	3	2	1
YMCA専門学校の教育目標を明示し、学生・教職員に対して日常的に伝えているか	4	3	2	1
他YMCAや他の横浜YMCA専門学校との協働プログラムを実施している	4	3	2	1

①課題	YMCA専門学校としてのミッションに沿って運営できていると評価している。教職員一人ひとりが学生に寄り添い、平和で公正な社会づくりの担い手になれるよう、学生を支援している。職能教育機関として、時代に即した形で運営できるような運営体制を整えたい。
②今後の改善方策	留学生の割合が増える中、職業現場や行政、各種関連機関と連携し、引き続き、情報収集に励む。
③特記事項	特になし

(2)学校運営

理事会、常議員会により、学校法人として運営方針は定められ、その中で本校の運営方針が定められている。学校の教職員には、全体職員会で運営方針と重点項目を校長より説明している。また全教職員の参加する会議を週に1回実施し、クラス運営について、指導の必要な学生について、学校行事の準備進捗についてなど情報を共有している。
意思決定は正確さと迅速さのほかに、チームに与える納得の大きさも重要であると考えている。「校長だから」とか「学科長だから」という権威による決定ではなく、あらゆる職員が繰り返し協議し、正しく納得のできる意思決定を続けていく中で得られる信頼を、意思決定システムの中核としたい。
また、法人本部で取り扱っている人事・労務・財務業務等がさらに効率的になり、意思決定が迅速になるように現場レベルでできることがあれば取り組んでいきたい。

	適切…4,ほぼ適切…3, やや不適切…2,不適切…1			
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2	1
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2	1
運営組織や意志決定機能は,規則等において明確化されているか,有効に機能しているか	4	3	2	1
人事,給与に関する制度は整備されているか	4	3	2	1
校長・学科長・コーディネーターなどの業務権限が明確になっており、決定のプロセスが全教職員で共有できているか	4	3	2	1
定期的に教職員会議や学科の会議を行い、情報の伝達を徹底しているか	4	3	2	1
非常勤講師に対し情報の伝達が効果的に行われており、また意見を徴収するシステムがあるか	4	3	2	1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	2	1
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	3	2	1

①課題	定期的な教職員会議を実施し、情報の共有に努めている。人的体制に変更があり業務の見直しを行う1年となった。 情報システム化に向け、保管データの整理、規則作りを再度見直した。
②今後の改善方策	学科長会を新たに設置し、学校運営の共通化を目指す。 システム導入前のデータベースの構築を行い、学籍簿とデータベースの突合せを行う。
③特記事項	特になし

(3)教育活動

教育カリキュラムは国の指定によって定められているため、学校独自に決めてゆける要素には限りがある。しかし教育目標や育成人材像を定めることはできるので、自由度が少ない中ではあるが学生一人ひとりがYMCAの使命を感じることができるような内容としたい。
また教育課程編成委員会を十分に機能させることで、業界ニーズに沿った教育課程の編成が出来るものと考えている。
授業評価はすべての科目に対して半期に1回実施し、非常勤講師を含めたすべての教員へ開示している。

	適切…4,ほぼ適切…3, やや不適切…2,不適切…1			
教育理念等に沿った教育課程の編成実施方針等が策定されているか	4	3	2	1
教育理念,育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4	3	2	1
学科等のカリキュラムは体系的に編成され、シラバスが作成されているか	4	3	2	1
修学に問題のある学生に対して、学生の学力不足を補うための教育をとくに実施しているか	4	3	2	1
キャリア教育実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫開発などが実施されているか。	4	3	2	1
関連分野の企業関係施設等,業界団体等の連携により,カリキュラムの作成見直し等が行われているか	4	3	2	1
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ,実技実習等）が体系的に位置づけられているか	4	3	2	1
授業評価の実施評価体制はあるか	4	3	2	1
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	3	2	1
成績評価単位認定の基準は明確になっているか	4	3	2	1
資格取得の指導体制,カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	3	2	1
人材育成目標に向け、教育成果を上げる能力を持った十分な数の教員を採用・確保できているか	4	3	2	1
教員採用の際にYMCA活動について説明しその担い手になることを伝えているか	4	3	2	1
関連分野における業界との連携において優れた教員（本務兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4	3	2	1
関連分野における先端的な知識技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	3	2	1
教職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	2	1

①課題	留学生や外国にルーツを持つ学生が増え別途日本語を学ぶ機会を設定する必要がある。個別支援を行うことで学生各々の課題教員の指導へのモチベーション、教育方法論、そして学生ケアの知識にも偏りがあり、十分とは言えない。留学生の日本語力を含め、修学に課題のある学生に対しての計画的なフォローが課題といえる。
②今後の改善方策	授業において教授すべき内容の質の担保をすべく、学生に対して個別の達成目標を提示しつつ、少人数ゼミ制の導入や補講教材の検討を行う。教育成果を上げるために教員への専門分野きとどまらない研修参加や非常勤講師も含めた学内勉強会などを検討する。
③特記事項	特になし

(4)学修成果

職能教育機関として、入学したすべての学生が就職をすることを目標に、教育も生活指導も行われている。また、学科の性質から全員が資格取得することを目標としているため、今年度より導入される介護福祉士国家試験にむけた対策については継続的に協議を行っている。就職率については、就職を希望する者についてはほぼ全員が正規職員としての就職を果たしている。
近年の傾向として学力に課題があったりコミュニケーションが苦手であったりする学生もいるが、一人ひとりが社会の中で生かされ、社会の一員として一生活者として暮らしていけるよう、個々に合わせた社会への送り出しを行っていきたいと考える。

	適切…4,ほぼ適切…3, やや不適切…2,不適切…1			
就職率の向上が図られているか	4	3	2	1
就職率は目標とする水準を確保できているか	4	3	2	1
学生に対する就職指導、情報提供、就職相談等を十分に行っているか	4	3	2	1
資格取得率の向上が図られているか	4	3	2	1
退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
卒業生在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
早期離職者の調査等、学生の就職後の状況について把握に努めているか	4	3	2	1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4	3	2	1

①課題

毎年校友会の協力により就職ガイダンスを開催し、そこから就職活動が活発になっている。資格取得を意識させていくなかでは、開催時期を早めることが必要になる。。退学者総数は減少し、経済的な理由による退学はない。単位未修得者への早めのフォローを行うことにより退学者はなし。課題を抱える学生へは早期の個別支援がますます重要となっている。

②今後の改善方策

学校行事をもう一つのカリキュラムとして位置づけている本校では学びの要となる。専門科目については新カリキュラムへの変更に向け内容や配当学年を見直す必要がある。

③特記事項

特になし

(5)学生支援

学生はクラス分けによって担任がつき、日常的には担任が個別の学生に対応している。また、担任だけでは対応が十分でない場合には学科長、校長が一緒に取り組む体制になっている。小規模校であることを利点とし、すべての学生の顔が見えるかかわりを教職員一丸となって心がけている。
毎年4月に全学生を対象に健康診断を実施し、再検査対象者には個別のフォローを行う。宿泊を伴う学校行事等では、参加前に看護師によるヘルスチェックを実施している。
経済的困難を抱えた学生に対しては、学費特別分納制度を適用するほか、日本学生支援機構や神奈川県介護福祉士修学資金、生命保険協会修学資金などさまざまな学費支援制度があり、

	適切…4,ほぼ適切…3, やや不適切…2,不適切…1			
クラス担任制など、日常から学生の要望を聞くことがある工夫・システムが構築されているか	4	3	2	1
教職員は学生が学校の主役であると理解し、自ら進んで声をかけ、励ましたり様子を聞いているか	4	3	2	1
進路就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	2	1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
高校,高等専修学校等との連携によるキャリア教育職業教育の取組が行われているか	4	3	2	1
保護者会を定期的に開催するなど、保護者に対して学校の情報を丁寧に伝達しているか	4	3	2	1
保護者面談などを定期的に実施し、保護者の意見や相談を受け止めるシステムができているか	4	3	2	1
保護者がYMCA活動や学校の行事に参画できるようなシステムを作っているか	4	3	2	1

①課題	クラス担任による就職支援が中心である。求人数は1,000件を超えるため、掲示やファイルといった方法を見直していく必要がある。 保護者会を年2回開催し、情報提供を試みているが参加者は少ない。 社会人(卒業生含む)へのリカレント教育を準備しているが講座への動員に結びついていない。
②今後の改善方策	実習終了後に就職活動を行うケースが未だ多いため、早められるようにしていく。 保護者の方々へYMCA活動を理解していただくことはとても重要であるため。保護者会以外に、学生の日常的な様子を通して伝えていく工夫が必要である。
③特記事項	特になし

(6)教育環境

本校は1985年に設立された。介護福祉士、社会福祉士の養成校として求められる基準をクリアしている。現在も、施設・設備の問題点等を常に把握できるよう努め、教育上の必要・指導基準を満たすようにしている。
しかし、37年を経て、予定外の傷みや運用上の問題があることも事実であり、今後のメンテナンスが課題となっている。
ほとんどの学生が課題等の作成をパソコンを利用し行うため、校内には無線LANを配置し、学生が使用できるパソコン45台をそなえている。
学外実習（インターン実習）は正規のカリキュラムに組まれている為、十分に指導体制は保たれているものの、いわゆる手のかかる学生の数が増えてきた為、実習訪問を増やしたり、指導教員を固定化したりなどの工夫を加えている。
照明の一部LED化、化粧室の暖房便座・ウォシュレット導入など、可能なところから学習環境の整

	適切…4,ほぼ適切…3, やや不適切…2,不適切…1			
教室の広さ、実習・実験室の数や広さ、附附帯設備は適切か	4	3	2	1
図書室を設けて蔵書を適切にそろえているか、有効に活用されているか	4	3	2	1
最新機器を備えた視聴覚機器や情報機器は足りているか、有効に活用されいているか	4	3	2	1
体育館や運動場などを保有しているか、学生が日常的に利用できる環境にあるか	4	3	2	1
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

①課題	図書室の蔵書は国の基準に合致するよう整えていく。視聴覚教材は故障したものは全て整備済みである。防災については、毎年定期的に避難訓練を実施している。災害は日常に起こることを心に留め、各教職員が非常時の行動を正しく理解する必要がある。
②今後の改善方策	図書委員会を中心に図書室の整備を引き続き行う。 防災マニュアルの見直しや消火訓練の実施なども検討していく。 修繕箇所を計画的に改修する必要がある。
③特記事項	特になし

(7)学生の受入れ募集

学生募集においては、正確な情報を提供して入学希望者自身の納得によって出願を決意してもらえるようにしている。入学後の学習意欲や動機付けを十分引き出せるよう、実際の学習現場の情報提供や知識の伝達など（特に学習および実習について）は過大や誇張のないよう表現をしている、資格を取得することだけではなく、YMCAで学ぶこと、YMCAのネットワークを自らのものとして活用しつつ成長につなげることに興味を持ってもらうことを大切にしている。

	適切…4,ほぼ適切…3, やや不適切…2,不適切…1			
広報活動の内容や手法は教育機関として適切か（行き過ぎはないか）、内容は真実性、明瞭性、公平性に基づいているか	4	3	2	1
効果的な広報活動が行われるよう、評価反省および分析を行っているか	4	3	2	1
教員も積極的に広報活動にかかわっているか	4	3	2	1
学生募集活動において,教育成果は正確に伝えられているか	4	3	2	1
教育内容、就職状況、退学率等について、積極的な情報公開を行っているか	4	3	2	1
学納金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

①課題	広報データベースの活用が不十分であった。留学生向けの分かりやすい説明資料の作成が必要である。 ホームページのこども総合科、介護福祉科、日本語学科のそれぞれのページの内容整理を行う。
②今後の改善方策	地域活動の一環として専門学校のもつ専門性を継続して地域へ開放していく。 WebやSNSを利用したり在校生の様子を定期的に発信していく。 介護福祉科への留学生受け入れを強めるため日本語学を含めた学校訪問を効果的に行っていく。
③特記事項	特になし。

(8)財務

本校の財務は、公益財団法人横浜YMCAの一部門として取り扱われている。
財務状況については、現状はある程度安定化しており、また情報公開も進められていると言える。

	適切…4,ほぼ適切…3, やや不適切…2,不適切…1			
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2	1
予算収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
財務について会計監査が適正に行われているか	4	3	2	1
財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

①課題	通信教育部の募集安定が今後の運営を安定させる。日本語学科は社会状況等により入国出来る人数が左右されるため、比率を減らしていく。 学費納入滞るケースが多いため、早めの対応を行う。
②今後の改善方策	介護福祉科の定員充足率を上げるため、本校日本語学科からの進学を推進する。 無償化対象校となったため、該当する学生への周知を行う。
③特記事項	特になし

(9)法令等の遵守

本校では、専修学校設置基準を遵守して運営している。
また、両学科とも「社会福祉士・介護福祉士法」、に則って運営されており、それらに関係のその他の規則（省令等）もふまえつつ、適切に学校運営がなされている。
また、教職員、学生に対してもそれぞれの場で、法令遵守の立場で周知している。
自己点検・自己評価については必要な時期に実施していて、それぞれ情報の公開をしている。昨年度には介護福祉科において第三者評価を受審した。

	適切…4,ほぼ適切…3, やや不適切…2,不適切…1			
法令,専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2	1
個人情報に関し,その保護のための対策がとられているか	4	3	2	1
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	3	2	1
自己評価結果を公開しているか	4	3	2	1

①課題	法令や設置基準については遵守されており、適正な学校運営がなされている。 個人情報に関してもサーバーによる管理を行っているが、学内での規程が整備されていないことは今後の課題と言える。
②今後の改善方策	個人情報の紛失、破壊、改ざん、漏えいなどを防止するため、情報へのアクセス方法や権限について基準作りを引き続き行う。
③特記事項	特になし

(10)社会貢献地域貢献

本校の有するリソースを利用し、地域の福祉向上、生涯教育の場の提供などを行っている。
校長はじめ教職員は、地域での様々な役割を積極的に担っており、求められる働きに力を注いでいる。また、学生は、地域福祉施設で行われる各種イベント等にボランティアとして組織的に協力している。
校舎を利用して、地域活動団体へ会場を提供したり、市民講座などを開催しており、貢献できていると自己評価している。

	適切…4,ほぼ適切…3, やや不適切…2,不適切…1			
学生が近隣諸団体への各種ボランティアにでているか	4	3	2	1
地域に対する公開講座教育訓練(公共職業訓練等)の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1
近隣諸団体から、講師の派遣依頼などがあるか	4	3	2	1
地域の町内会や子ども会との協働プログラムを実施しているか	4	3	2	1
地域の業界団体との連携を十分に取り、人的な交流が盛んにおこなわれているか(各種委員会など)	4	3	2	1
県・専各連が主催する行事及び会議などには積極的に参加しているか	4	3	2	1

①課題	教職員は、学校の持つ専門性を地域で活かすべく、積極的に取り組んでいる。学生にも地域でのボランティア活動を推奨し、取り組んでいるが、情報収集や施設側との連絡などは教職員を頼る傾向がみられる。自発的なボランティア参加を促すようなしかけづくりが必要である。地域や関係機関からの講師依頼への協力は積極的に受け止めているが、他業務との兼ね合いもあり対応困難なケースもある。
②今後の改善方策	学生のボランティア参加の機会を継続保持しつつ、今後は自らが進んで、意志を持って活動に参加するように、意識を高めるよう指導していく。そのためにボランティア活動で得ることのできた体験を一過性のものにしないよう、学生間での報告会の開催などを企画し、発信の機会を創っていく。
③特記事項	本校経営主体となる法人はボランティア団体としての側面も持ち、ボランティア活動の機会は学内外に多分にある。このことは入学前から伝えており、学生たちの期待も高い。改善策にあるように、学生自身の成功体験の1つとなるよう、進んで取り組むべき項目である。

(11)国際交流（必要に応じて）

適切…4,ほぼ適切…3,
やや不適切…2,不適切…1

留学生の受入れ派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4	3	2	1
受入れ派遣,在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4	3	2	1
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	3	2	1
学内で適切な体制が整備されているか	4	3	2	1

①課題　介護福祉科での留学生受け入れは今後も拡大する見込みである。教育上の課題だけではなく、生活面や在留についての対応についても課題は多い。

②今後の改善方策　日本語学科との更なる連携や、在留資格更新に関する知識向上などが必要である。

③特記事項

全国YMCA専門学校運営ガイドライン

1）学校の主役たる学生理解

2）YMCA教職員像

3）教職員採用の考え方

4）授業評価システムとシラバス

5）会議体の機能活性化と効果的コミュニケーション

6）総主事・校長の役割

7）地域との関係づくり

8）保護者との関係づくり

9）全国YMCA協力の推進